

第5学年 国語科学習指導案

学校名 龍郷町立秋名小学校
教諭 柳野 竜生

1 単元

- (1) 単元名 「方言について調べよう」
- (2) 教材名 「方言と共通語」(光村図書5年下)

2 単元の目標

- (1) 方言と共通語との違いについて知識を持ち、関心を深める。【言語事項力(イ)】
- (2) 学習者の出身地の方言について知り、関心を高める。
【本校では奄美大島の方言である島口(シマユムタ)】
- (3) 自分の調べる領域ごとに、各地方の方言をインターネットで調べる。
【インターネット活用能力】
- (4) 調べたものをまとめる。【読む・書く】
- (5) まとめたものを発表する。【話す・聞く】

3 単元について

本単元「方言について調べよう」は、教科書学習材「方言と共通語」の学習を通して、方言と共通語の違いを理解し、学習者の住んでいる地方の方言に興味を持つと共に、日本各地の方言についても調べ、まとめることをねらいとした単元である。また、光村図書5年下学習指導書では2時間扱いになっているが、発展的に地域の高齢者の方言についての話やインターネットでの調べ学習などを取り入れ、7時間扱いにした。

この期の学習者たちは、本単元と同じ言語事項の言葉遣いに関する事項については、これまでに常体と敬体について学習してきており、使い分けられていることから、相手と場に応じた言葉の使い分けを考えることはできるようになってきている。しかし、方言と共通語を意識し、取り立てて学習するのは、初めてとなる。

そこでここでは、まず教科書学習材「方言と共通語」の学習を通して、方言と共通語の違いと使い方について知識を持ち、関心を深めさせたい。次に、方言について関心が高まったところで、自分たちの住んでいる地域の方言を高齢者から学習する機会を設定する。さらには、インターネットを活用し、自分たちが住んでいる地域の方言と同じ意味の全国各地の方言を自分が調べたい領域ごとに、調べる学習へと発展する。そして、自分で調べたことを新聞などにまとめて、クラスのみんなや異学年・授業参観で保護者に向けて発表するなど、相手意識・目的意識を持った発表会が、単元のゴールとなるよう本単元を設定した。

4 デジタルコンテンツの活用について

本単元では、地域の高齢者から学習した自分たちが住んでいる地域のそれぞれの方言が、他の地方では、どのような呼ばれ方をしているのか、インターネットで調べる学習を設定した。

学習者一人一人が、「生き物」「食べ物」「人をさす言葉」「気持ちを表す言葉」「あいさつ言葉」の各領域ごとに分かれ、インターネットで調べていった。

学習者の進度に合わせて、次のように学習が進んだ。

奄美の方言が、他の地方ではどのように呼ばれているか調べる。

自分の領域で、他の方言も調べる。




他の領域でも調べる。

なお、本単元で使用したホームページは、「方言辞典リンク集」(<http://www.saga-ed.go.jp/materials/edq01459/manabou/shirabeyou/manabou.html>)である。しかし、インターネットの接続環境などから不都合が生じ、いくつかある中から実際に学習者が使ったサイトは、次のようなものである。「岡山弁研究所」「Let's Try Sagaben!!」「阿波弁(徳島)」「沖縄方言」「石巻日本語 東京日本語辞典」である。

5 単元の指導計画(全7時間)

指導・支援

評価

過程	時間	主な学習活動	教師の指導・支援・評価
つかむ・見通す	1 1	<p>1 教科書学習材「方言と共通語」で、方言と共通語の違いと使い方に気付き、方言に興味を持つ。</p> <p>2 本単元のあてと学習の見通しを持つ。</p>	<p>方言とは何か。共通語とは何か。はっきりと理解させる。</p> <p>一つの共通語から、地方によって呼び方が違うということに気付かせ、方言のおもしろさへと導かせる。</p> <p>方言とは何か、共通語とは何か、理解することができたか。</p> <p>各地方の方言について、調べまとめて、発表するという単元のめあてに意欲をもたさせる。</p>
調べる	3 1	<p>3 自分の地域の方言について、学習する。 (地域の方のお話)</p> <p>(1) 方言での自己紹介 (2) 教科書に載っている言葉 (3) 人をさす言葉 (4) あいさつ言葉 (5) 気持ちを表す言葉 (6) 生き物 (7) 食べ物</p>	<p>方言に堪能な方で、お話し上手な地域の方をリストアップしておき、都合のよい方を地域の先生として招聘する。</p> <p>地域の方と内容を十分に打ち合わせて、スムーズに学習が進むようにしておく。</p> <p>地域の方言に興味・関心を持つことができたか。</p> 
	3 2	<p>4 インターネットで、自分が調べたい領域の方言を調べる。 (本時2 / 2)</p> <p>上記3 (3) ~ (7)の領域の中から、自分が調べたい領域の各地の方言を調べる。</p>	<p>事前に、学習で使うホームページをダウンロードしておいた方が、学習がスムーズに展開する。今回使用したものは「方言辞典リンク集」である。</p> <p>ホームページの中には、各学校の接続環境などから、接続可能なものと不可能のものがあるので、事前に、使用しやすいものをピックアップしておく必要がある。</p> <p>インターネットで各地の方言を調べることができたか。</p>
深める	2 2	<p>5 自分が調べた方言について、まとめる。</p> 	<p>相手を意識しながら、自分なりの方法でまとめさせる。</p> <p>分かりやすく・見やすく・読みやすくなるように、まとめ方を工夫させる。</p> <p>自分なりの方法でまとめることができたか。</p>
まとめる	1 1	<p>6 まとめたものを発表し合い、感想を出し合う。</p> 	<p>聞き手に分かるように、はっきりとした声で発表させる。</p> <p>友達の発表を聞いて、分かったことやよかったことをコメントカードに書いたり、発表したりする。</p> <p>全学年のみんなが自由に見られるように、廊下にも置いたり、掲示板に貼ったりしておく。また、コメントカードを自由に書いてもらえるように置いておく。</p> <p>聞き手に分かるように発表できたり、友達の発表に対して感想を持ったりすることができたか。</p>

5 本時 (4/7)

(1) 目標

ある共通語について、それぞれの地方では、どのような呼ばれ方をしているのか、インターネットを活用して各地方の方言を調べることができる。(インターネット活用能力)

調べたことをメモすることができる。(書く)

調べたことを聞き手に分かりやすく、話すことができる。(話す)

どの共通語が、それぞれの地方で、どのような呼ばれ方をされているのかについて、友達の発表を聞くことができる。(聞く)

(2) 指導に当たって(デジコン活用を含む)

本時は、ある共通語について、それぞれの地方では、どのような呼ばれ方をしているのか、インターネットを活用して各地方の方言を調べる時間の2時間目である。

そこで、展開にあたっては、次のようなことに留意したい。

「つかむ・見通す」段階では、前時の学習を振り返り、どのホームページが調べやすかったか発表し合ったり、今まで調べたことを発表し合ったりすることにより、調べてみようとする意欲を高めさせたい。

「調べる」段階では、前時に引き続き自分が調べたい領域(人をさす言葉・あいさつ言葉・気持ちを表す言葉・生き物・食べ物)の方言について、追求させたい。あらかじめ、指導者で使いやすいホームページをプリントアウトしておき、内容を把握し、パソコン間を巡視する際、支援して回りたい。



「深める」段階では、自分で調べまとめたものを伝え合わせたい。その際、友達の発表をしっかりと聞かせ、自分が調べた方言と比較させたい。

「生かす」段階では、友達の発表の中から発見した新しい方言を調べさせたい。

「まとめる」段階では、本時発表された方言を領域ごとに振り返りまとめさせたい。

(3) 実際

支援 評価

過程	主な学習活動	時間	教師の支援・評価
つかむ・見通す	1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">インターネットで、他の地方の方言を調べよう。</div> (1) 奄美の方言と他の地方の方言を比べる。 (2) 同じ領域で、他の地方の方言を調べる。 2 学習の進め方を確かめる。 インターネット調べ発表 インターネットで確認方言の振り返り	5分	学習者が前時に調べたホームページの中で使いやすいものや調べた方言を発表し合い、学習の意欲付けを図りたい。  学習の進め方を提示し、しっかりとつかませる。 学習のめあてや進め方をしっかりとつかめたか。
調べる	3 自分が調べたい領域の方言をインターネットで調べる。 	20分	ある共通語について調べた奄美の方言を他の地方では何というか調べさせる。 パソコン間を巡視しながら、つまづいている学習者を支援する。 早く進んでいる学習者には、自分の領域で他の方言や別の領域の方言調べに挑戦させる。 自分の調べたい領域の方言を調べ、メモすることができたか。
深める	4 自分で調べた方言を伝え合う。	10分	友達の発表をしっかりと聞かせ、自分がまだ調べていなかった方言をメモさせる。 自分の考えを発表することができたか。
生かす	8 友達の発表の中から、自分が調べていなかったものをインターネットで調べる。	5分	新たな発見に向けて、友達から聞いた方言を調べさせる。
まとめる	9 本時出てきた方言を振り返り、領域ごとに整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">例：私のことを奄美ではワン、徳島ではウッチャ、鹿児島ではオイ</div> 10 次時の学習の確認をする。	5分	学習者が調べた方言を領域ごとに振り返らせる。 奄美の方言を他の地方では、何というか確認することができたか。 次は、調べたことをまとめる学習であるということ伝え、次の学習意欲へと結び付けたい。

(4) 評価

インターネットを使い、奄美の方言を他の地方では何と呼ぶか調べることができたか。